

令和6年度 自己評価・学校関係者評価書

令和6年3月
常盤学園 新屋幼稚園

1. 本園の教育目標

仏教理念を通して情操を高めると共に、人間性豊かな子どもを育てる。

2. 本年度重点的に取り組む目標(テーマ)

教師、園児共に自分の考え、思い(気持ち)を言葉にする。
相手にも考え、思いがある。聴くよう心がけていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	自己評価	理由
1	保育の計画性	B	教育課程はあっても見開きすることなく、自分なりの計画で進めて行く傾向があった。本園の教育目標を掲げているだけで、検討がなされていない。
2	保育の在り方 幼児への対応	A	・支援を必要とする児が当園では多い。支援員(臨時の保育士)の指導をかりてクラスの運営ができたことに感謝したい。 ・子どもの人数(1クラス10~15名)という恵まれた保育環境の中、子ども達の意見も取り入れながら保育ができていた。姉妹園から異動した職員も他の職員に聞いたりしながら話し合いがもてていた。 ・どのクラスの子どもにも職員が声をかけ、寄り添いがもてた。
3	教師としての資格・能力・良識・適性	B	・計画は立案しても、能率よく手順よく仕事を行っていないと自己評価している人も多い。 ・マンネリ化した保育になっていないか、公開保育等が少なかった為、他の先生の意見、指導を聞く機会がなかった。 ・本を見て学ぶことも少ない。常に研究心をもって幼児教育に望めなかった。
4	保護者への対応	A	・人数が少ない為、保護者とコミュニケーションをとる事が充分できる。あまり深くコミュニケーションをとりすぎて保育者自身が疲れてしまうところもあった。 ・信頼関係としてコミュニケーションをとるのは良いが、親しくなりすぎると友達のような話し方、態度、対応になってしまい、不適切な対応にとられやすい。
5	地域の自然や社会との関わり	A	・コロナが収束し、散歩(異年齢)をしたり、焼津の施設に出掛けたりしてきた。 ・公民館のまつりでは出演させて頂き、地域コミュニティとの関わりがようやく不安なくもてるようになった。 ・HPに子どもの様子を伝え(写真)力をいれてきた。
6	研修と研究	B	・自分から進んで教育課程を開いたり、研修や本を見て学んだりすることがない。研究心に欠けた。 ・幼児教育の目的を学ぼうとする保育士が少ない。
7	施設、設備、防災計画の対策	A	・学校保健計画マニュアル・危機管理マニュアル等、中身の確認が個人では見ようとししない。 ・避難訓練、不審者、出席確認等、命に関わる訓練は充分もてた。 ・施設、設備は老朽化している所が出てきている。危険のないよう整備してきた。
8	財務処理	A	・正確な事務処理を心がけた。 ・提出物(市・県)は期日を守り、不明点は会計士に確認したり、理事長、園長に聞くよう心がけた。 ・任された仕事を正確に処理してきた。 ・能率よく素早くは難しかった。

評価 (A・・・十分成果があった B・・・成果があった C・・・取り組んだが成果がなかった)

4. 今後取り組む課題、考案

	課 題	取り組み・考案
1	教育課題の作成 子どもとの関わり	・教育課程の見直し、作成を今後早急に行う。 ・以前の子どもの姿、発達等、随分変わってきている。現在ある教育課程通りには子どもが発達していない。 ・幼児教育要領改訂に伴い、教師自身が充分学んでいない。研修をしながら子どもへの関わりを共有していく。 ・支援を必要としている児が多い。個別計画を立て、教職員が共有した関わり方の話し合いをもっていく。 ・様々な園内研修を取り入れ、創設者の思い(願い)を共有しながら、研究、研鑽する。
2	安全管理	緊急事態発生に備えて、危機管理マニュアルを自分のものとし、子ども達の命を守るよう充分意識化していく。
3	幼小接続	・幼稚園と小学校の教師が共に学ぶ機会をもてるように小学校に連携をはかる。 ・巡回相談等を通して市とのつながりをもっていく。
4	保護者支援	・教育相談、個人面談がいつでもできるような体制とし、保護者支援(話を聞ける)していく。 ・一人親世帯が増えている。又、共稼ぎ家庭も多く、子どもも不安定になりやすい。しっかり受け止めていきたい。